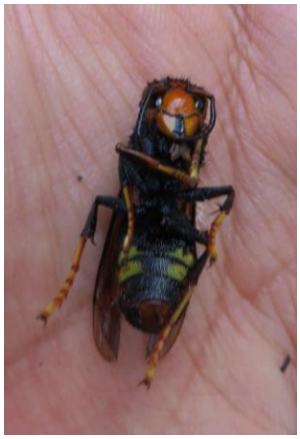
外来種「ツマアカスズメバチ」と戦う

ツマアカスズメバチは中国やブータン、インド北部等が原産の特定外来生物です。
もし定着してしまった場合は、様々な昆虫を捕食するため、生態系に大きく影響すると考えられ、またミツバチを好んで捕食するため、海外では養蜂業への影響が報告されています。
さらには海外では人に対する刺傷被害も報告されている、とても危険な昆虫です。そのため、日本への定着を阻止すべく、国として対策を進めています。
日本におけるツマアカスズメバチの定着は離島である長崎県対馬市でのみ知られ、島内での防除が進められているところです。しかしながら、2015 年 9 月の福岡県北九州市をはじめとし、九州本土および本州への複数回の侵入が確認され、さらに、2022 年には福岡県で営巣が確認され、本州への分布拡大が強く懸念されています。
アース製薬は国立環境研究所と協力し、ツマアカスズメバチの早期防除に向けた取り組みを開始しました。薬剤防除技術として、現在、当社のノウハウを詰め込んだハチのベイト剤であるハチの巣コロリの有効性を検証しています。ハチの巣コロリは高い殺虫効果を示す薬剤を主成分とし、さらにミツバチが嫌う成分も配合し、ミツバチの誘引を抑えて養蜂に対するリスクを低減しながら、防除を進めることを目指して開発されています。
駆除活動は始動したばかりですが、今後もツマアカスズメバチの侵入を阻止すべく、官民共同体制で駆除技術の高度化を進めていきます。